

乳 児 健 診 と 検 査

阿 部 敏 明*

要約：乳児健診における超音波診断法の適応について検討した。超音波診断法より得られる情報は有用であるが、乳児健診においては操作性等の点で問題があり、新機種の開発が必要である等の問題点が明らかとなった。

見出し語：超音波診断，股関節脱臼，内臓の発育

目的：保健所や医療機関などの外来診療の場で行なわれる乳児健診に必要な検診手技の開発を目的とする。

昨年度（昭和61年度）には、保健所や医療機関の外来診療の場における乳児健診の実態調査、そこで使用されている器具や検査項目などを調べた。乳児健診と云う多人数の乳児のスクリーニングの場では、簡便な手技と迅速に結果の得られる方法が要求される。現在使用されている器具は、従来より使用されているものが多く、最近の進歩の目覚ましい医療機器が十二分に活用されているとは云い難い。私達は、簡便で非侵襲的な機器として超音波放射用機器を用いて、

乳児健診に応用できるか否かについて検討した。

方法：帝京大学医学部附属病院小児科外来を乳児健診の目的で来院した乳児の股関節および内臓の測定を試みた。

結果と考察：神経細胞腫の早期スクリーニング法としては尿のVMAの測定が用いられている。この方法により当科でも2症例の神経芽細胞腫を発見した。しかし、最初私達が経験したガングリオニューロブラストーマなどの場合には、尿VMA量は正常範囲であり腹部腫瘍のみが顕著であった。この様な場合には、尿中VMA測

* 帝京大学医学部小児科
(Teikyo University School of Medicine)

定法と云う化学的スクリーニング法では不十分である。これを補う目的で形態的スクリーニングとして超音波診断法を内臓臓器の形や大きさの推定に用いる事ができると好都合である。胆石、腎臓や肝臓などの実質臓器の形や異常所見の発見に、超音波診断法は、実際の診断の場では十分に活用されている。

現在利用できる超音波診断用機器は、操作が比較的複雑であり、又臓器の大きさの定量化に必用な数量の再現性に乏しい為に、乳児検診には適しているとは考え難い。特に股関節の検査などは、かなりの熟練をして専門的なテクニックを必要とするので、一般医師や保健所などの一次スクリーニングには好適とは云えない。今後、一層の簡便で、持ち運びが容易であり、操作が難しくない機種の出現が待たれる。しかし、現在の機器業界は、より精密で高価な機種の開発が主として注目されているので、この様な用途にあう機種の出現は近い将来は困難かも知れない。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:乳児検診における超音波診断法の適応について検討した。超音波診断法より得られる情報は有用であるが、乳児検診においては操作性等の点で問題があり、新機種の開発が必要である等の問題点が明らかとなった。